

「徳成随風」(20)

2014.03.03

新校旗の贈呈と卒業(修了)式

桑高同窓会長 西羽 晃

昭和25(1950)年に制作された桑高校旗が60年余りの年月を経て、かなり痛んできたので、新校旗を寄付してほしいと、学校から同窓会に要請された。創立100周年の記念事業の一環として、同窓会で制作することになり、昨年の秋に2社から見積りを取り、何度か見積りを取り直し、発注することができた。従来旗と違うのは、本体の大きさが縦90cm、横135cmで横幅が大きくなった。生地は綴錦の最高級品である。旗棒も七宝塗で、長さは240cmと豪華である。



卒業(修了)式に間に合うように、2月19日に納品された。そして2月28日に行われた全日制的同窓会入会式に先立って、同窓会長の私から渡辺校長に渡された(写真)。ずっしりと重い。小柄な私では持って歩くのも困難なほどだが、手渡しの間はほんの数秒で、校長に受け取って頂いた。

従来旗は戦後間もない時期の制作であり、物資も十分な時期でなかったため、痛みも早かったかと思う。それに比べると、品質も数段のハイクラスであり、大切に保管されれば、100年先の創立200周年まで保つであろう。

翌日の3月1日の卒業(修了)式に早速のデビューである。卒業(修了)式は例年のごとく全日制・衛生看護専攻科・定時制と3回に分けて行われ、会場も別々であるが、いずれの会場でも新校旗が飾られた。出来立てほやほや、ピカピカの旗が晴れの式場に、一段と映えた。従来校旗ではだらりと垂れさがり、校章がはっきり見えなかった。今度は生地がしっかりしているし、校章が鮮やかに正面を向いている。銀色に輝く3枚の桑の葉と、真中の高の文字の金色が誇らしげである。

卒業(修了)式の儀式は昨年と同じであるが、変わった点は全日制では開式に先立ち、3年間の思い出をスライドで紹介していた。人数は減った。普通科が1クラス減ったので、40人減、専攻科は途中の退学があり6人減。定時制は2人増の11人で、よくがんばった。

やはり感動的なのは答辞である。今回は3回とも素晴らしい答辞だった。全日制では普通科の女子生徒が理数科・衛生看護科の生徒に教えられることが多かったと述べていた。とくに衛生看護科の生徒は看護師になるという目的意識を持っているので、勉学にたいする姿勢に学ぶ点に尊敬の念を持った。そう言えば、この学年から衛生看護科は分校が無くなり、1年生から本校で共に学んだ学年であり、わだかまりも少ないのであろう。

衛生看護専攻科は唯一の男子生徒が羽織・袴で答辞を述べた。この学年は2年間だけ分校で学んだので、こじんまりした分校で、自分たちだけで行った衛看祭を懐かしく思い出していた。彼は最初からハンカチ持参で登壇し、しばしば涙声となり、会場からも鼻をすする音が聞こえた。

定時制は女生徒だったが、在学中の17歳で妊娠し、18歳で出産した。子育てと仕事と勉学と3本立てをよく頑張った。それには夫をはじめ家族の協力と先生やクラスメイトの励ましがあつたことを感謝していた。